第 3 章

研究の方法

第3章　研究の方法

3－1 伊吹町各地区のまちづくりについての調査方法

3－1－1 ヒアリング調査

伊吹町地区計画の流れおよびそれに伴う各地区の取り組み状況を明らかにするため、伊吹町行政および町内 19 地区の地区推進委員長へのヒアリングをおこなった。地区推進委員長の中には、名前を貸しているだけで実際委員長役を担った人が別におられた地区も 2 地区あったので（地区Ｊ、Ｍ)、それらの 2 地区に関しては実質的に委員長としての役を担った委員へのヒアリングとした。

また、各地区のプライバシーの侵害を避けるため、これから先の地区名はすべてＡ～Ｓのアルファベットにて表示する。

◆伊吹町役場総合政策課　谷口隆一氏へのヒアリング(7 月 17 日他)

■ヒアリング項目

① 伊吹町及び、各地区の基礎的情報(地図、人口、面積、自然環境)

② 第 4 次総合発展計画概要(目的、流れ、配布資料など)

③ アクション事業の概要(目的､アクション事業内容､参加地区の事業提案内容、各地区の活動報告状況、問題点など)

◆伊吹町内 19 地区の地区推進委員長へのヒアリング

■ヒアリング項目

① 区の概要

・総会、総出回数
・老人会、婦人会、子ども会の活動状況
・区独自団体の有無及び活動内容
・地域の自慢
・コミュニティとしての特徴
・地区のイベントおよび主催団体
・近隣地区との連携の有無および活動内容
・区政の主要役員および情報伝達方法
・集会所の利用状況

② 委員長の属性

・年齢
・職業
・居住年数

・選出理由

③ 委員の属性

・年齢層

・所属

・選出理由

④ 地区計画への対応

・推進会議の開催状況

・区民への働きかけ状況

・アクション事業への対応

・アクション事業申請内容

・アクション事業に対する意見

・　行政職員について

表 3-1　ヒアリング対象者および日時

地区名	ヒアリング対象	立場	ヒアリング日時
R	T氏・F氏	11年度推進委員長・12年度推進委員長	10月15日
A	H氏	推進委員長	11月11日
D	N氏	推進委員長	11月14日
G	A氏	推進委員長	11月22日
H	I氏	推進委員長	11月17日
I	T氏	推進委員長	〃
L	O氏	推進委員長	〃
M	M氏	推進委員	11月27日
K	K氏	推進委員長	11月11日
N	H氏	推進委員長	11月11日
E	N氏	推進委員長	10月15日
S	T氏	推進委員長	9月17日
O	T氏	推進委員長	10月16日
F	N氏	推進委員長	7月17日
P	S氏	推進委員長	11月13日
C	M氏	推進委員長	11月18日
Q	I氏	推進委員長	11月13日
J	F氏	推進委員	11月15日
B	T氏	推進委員長	11月13日

3－1－2 資料調査

「伊吹町地区計画」に関する基本的な情報は、「伊吹町第 4 次総合発展計画」および伊吹町総合政策課配布資料中心に、各地区のまちづくりの動きに関する基本的な情報は、各地区へのヒアリングおよび配布資料、地区別アンケート結果から中心に得た。

表 3-2　参考文献および参考資料

伊吹町役場	伊吹町の基礎的情報に関する資料
	平成 12 年人口及び高齢化率
	広報伊吹(平成 13 年 4 月～平成 13 年 11 月)
	伊吹町地区計画及びアクション事業に関する資料
	第 4 次伊吹町総合発展計画地区計画区長・地区推進委員長説明会資料
	第 4 次伊吹町総合発展計画 2000 年発アクション事業補助金交付要綱
	第 4 次伊吹町総合発展計画[1)]
	2000 年発アクション事業計画書地区アクション事業報告座談会配布資料
	地区計画中間報告要点
各地区	各地区のまちづくりに関する資料
	地区別統一事項の調査シート
	アンケート資料
	地区内へのまちづくりに関する配布資料
	勉強会資料
	生活改善資料
	議事録および活動報告書
文献	伊吹町歴史に関する資料
	伊吹町史　通史編下[2)]
	地域自治会の研究[3)]
	都市計画 219　特集：都市計画マスタープラン[4)]

3－2　各地区のステップ達成状況によるグループ分けの方法

ヒアリングおよび資料調査から、まちづくりを自主的で継続的なものにしていくためには大きく次の２つの段階を踏むことが必要であることがわかった。

①　地区推進委員長から区民までが地区計画及びまちづくりに対する認識、意識を高める

②　区民の漠然とした地区への思いを具体的事業化する

地区計画に関する情報の流れは次のとおり(図 3-1)。

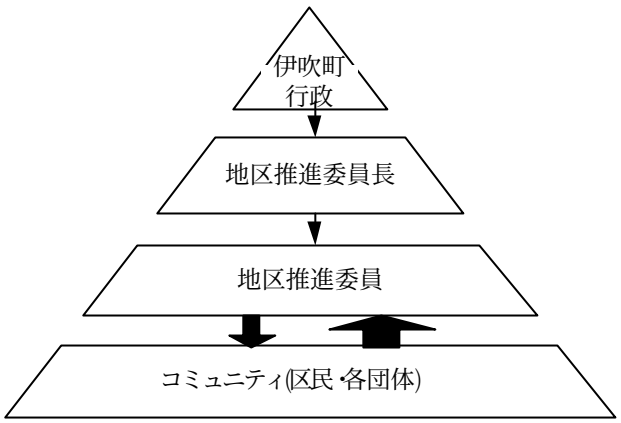

図 3-1　伊吹町地区計画に関する情報の流れ

情報がコミュニティまで共有された段階でまちづくりに関する話し合いを進めていかなくてはならないが、まちづくりの具体化をするための流れは近藤らによって次図のように報告されている。

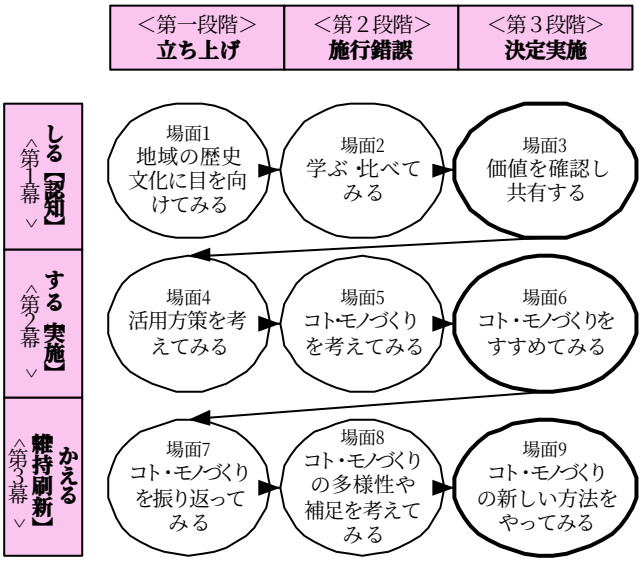

図 3-2　まちづくり目標設定から事業化までの流れ [5)]

上図において決定実施の段階をひとつの判断基準と考え、①②をひとつの流れとして表すと下図のようなステップの流れにあらわすことができる(図 3-3) 。地区内での情報共有および理解までの流れの後にまちづくり目標設定以降の手順を設けたのは、伊吹町地区計画の性格上、まちづくりを事業化するに当たって区費の捻出をする必要があり、区民の理解なしでは区費の捻出に対する合意が得られなかったという地区が複数存在したためである。

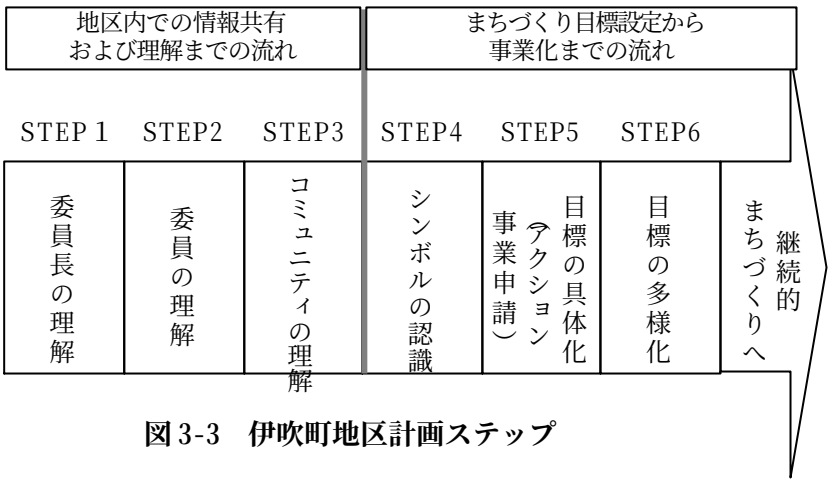

図 3-3　伊吹町地区計画ステップ

ここで、図 3-3 のステップの達成段階に応じて各地区のグループ分けを行うと、各地区の達成段階によってグループは７段階に表すことができる。目標達成型がA、Bの２種類になるのは、今回、行政の政策でアクション事業という目標達成の機会が行政によって与えられたので、地区内での情報共有および理解が得られていない地区も事業申請案を提出することができ、そのために、地区内での理解が得られた上で事業申請した地区と、理解が得られないまま事業申請をした地区の 2 パターンが存在したからである。

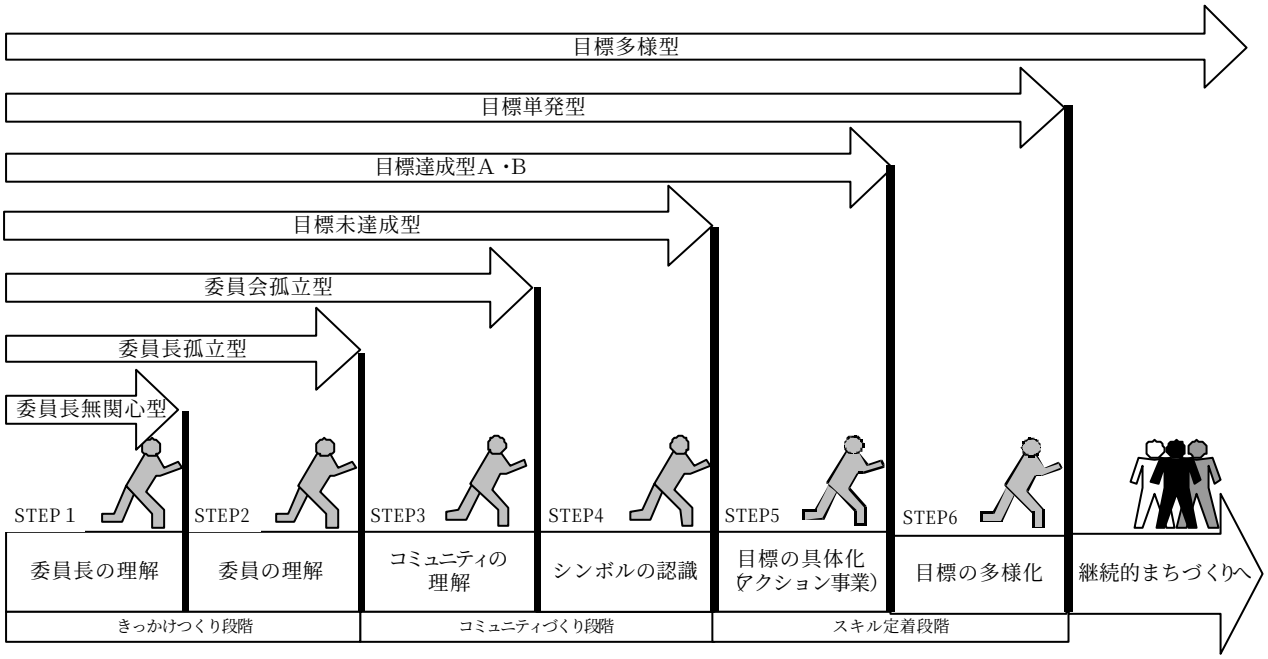

図 3-4　ステップ達成段階とグループ分類図

グループ分けを行うにあたってのステップ達成状況の判断基準としては表 3-3 のように定義した。また、各グループ名および概要は表 3-4 である。

表 3-3　伊吹町地区計画におけるステップ達成の判断基準

STEP1	委員長の理解	委員長が地区計画を理解し、地区推進委員へ積極的に働きかけた
STEP2	委員の理解	委員が地区計画を理解し、計画実現に積極的に働きかけた
STEP3	コミュニティの成熟	区民の情報伝達体系ができており、計画実現に積極的に働きかけた
STEP4	シンボルの認識	地区のシンボルを区民が共有できた
STEP5	目標の具体化	シンボル認識ををまちづくりのきっかけとして具体的事業提案ができた
STEP6	目標の多様化	アクション事業終了後もまちづくりの目標を提案し、展開していった

表 3-4　グループ名および概要

目標多様型	アクション事業をきっかけにまちづくり委員会を新たに立ち上げ、まちづくりに積極的に取り組んでいる地区。まちづくりを多方面に発展させているグループ。
目標単発型	アクション事業をきっかけにまちづくりに対する姿勢が根付いた地区。しかし、現時点でまちづくりの目標多様化には結びついていず、勢いがないなどまちづくり委員の継続性に少し疑問点があるグループ。
目標達成型A	目標の具体化(アクション事業提出)をし、地区のシンボルに対する意識もほぼ統一されているが、目標の多様化、継続性がなかったグループ。
目標達成型B	目標の具体化（アクション事業提出）をしたものの、まちづくりをするための基盤ができていなかったため継続性を持つにいたらなかったグループ。
目標未達成型	シンボルの認識共有ができず、目標達成に至らなかったグループ。
委員会孤立型	委員会の理解はえら得たものの、コミュニティの理解が得られず、委員会が孤立してしまったグループ。
委員長孤立型	委員長の理解は得られたものの、委員の理解が得られず、委員長が孤立してしまったグループ。
委員長無関心型	委員長の理解が得られずまちづくりへの積極性がほとんどみられなかったグループ。

3－3 分析体系

この作業によって得られたグループを次の 6 つの視点で分析する。

（1）地区の基礎的要因

地区の基礎的要素が地区計画に及ぼす影響を明らかにするため①地区の人口②高齢化率③総会回数④イベント回数を①～③はグラフ化し比較、④はヒアリングより各グループを考察する。

（2）地区推進委員長の要因

地区推進委員長が地区計画に及ぼす影響を明らかにするため、①選出方法②年齢③居住パターン④勤務地をそれぞれグラフ化し、地区推進委員長に適した要素を分析する。

（3）地区推進委員の要因

地区推進委員が地区計画に及ぼす影響を明らかにするため、①選出方法②年齢層③男女比をそれぞれグラフ化し、地区推進委員長に適した要素を分析する。

（4）まちづくりの進め方の要因

事業期間の各地区の動きからどのような事業推進をした地区がまちづくりの発展を促すのか、また、どのような主体が関わることがまちづくりの発展に貢献しているかを明らかにするため①推進会議とワークショップ数比較およびワークショップ内容②ワークショップ実施形態をそれぞれグラフ化し、考察する。

（5）アンケートの要因

アンケートの傾向、アンケート形態から予想される効果的なアンケート方法を明らかにするため、①アンケートの利用状況②アンケート対象③設問項目数および設問内容の 3 点を分析、考察する。

（6）時間軸からの考察および各地区の詳細要因

ヒアリングより、推進会議数、ワークショップ数、アンケート、地区におけるイベント数総会数を明らかにしてグラフ化した上で、地区内での動きを行政の動きに対応させ、分析する。

以上 6 つの視点に対して分析をおこなうにあたって使用した資料は以下のとおりである。

表 3-5　4 章にて用いる資料入手先および分析概要

		用いる資料	資料入手先	分析概要
1.地区の基礎的要因				
①	人口	H12年人口及び高齢化率(伊吹町)	伊吹町	単純集計し、グループ後と比較
②	高齢化率	〃	〃	〃
③	総会	総会回数	委員長ヒアリング	〃
④	イベント	イベント回数	〃	〃
2.地区推進委員長の要因				
①	選び方	ヒアリング結果	委員長ヒアリング	単純集計し、グループごと比較
②	年齢	〃	〃	〃
③	居住パターン	〃	〃	〃
④	勤務先	〃	〃	〃
⑤	地区推進委員長とステップ達成状況			①②③④を受けて図化して評価
3.地区推進委員の要因				
①	選び方	ヒアリング結果	委員長ヒアリング	単純集計し、グループごと比較
②	年齢層	〃	〃	〃
③	男女比	第4次伊吹町発展計画添付資料	伊吹町	〃
④	地区推進委員とステップ達成状況			①②③を受けて図化して評価
4.まちづくりのすすめ方の要因				
①	推進会議数	議事録およびヒアリング結果	委員長ヒアリング	単純集計し、グループごと比較
	ワークショップ数	〃	〃	〃
①	推進会議とワークショップ割合	〃	〃	〃
②	ワークショップ内容	〃	〃	〃
③	ワークショップ推進主体	〃	〃	〃
5.アンケートの要因				
①	アンケートの有無	アンケート	ヒアリング結果	グループごとに比較
②	アンケート対象	〃	〃	表化
③	設問内容	〃	各地区	設問を分類し、グラフ化して考察
6.まちづくり目標具体化の要因				
①	アクション事業提案	ヒアリング結果	委員長ヒアリング	アクション事業提出地区の目的と事業化がどう変化しているかを図化
②	地区統一シート	地区統一シート	伊吹町	問題点と問題解決の比較を図化

3－4　本研究で用いる分析手法のまとめ及び構成

本研究ではヒアリング、資料調査を元に

① **地区の基礎的要因より地区の要因が住民主体型まちづくりに及ぼす影響を明らかにする**

② **地区推進委員長の要因から地区推進委員長が住民主体型まちづくりに及ぼす影響を明らかにする**

③ **地区推進委員の要因から地区推進委員が住民主体型まちづくりに及ぼす影響を明らかにする**

④ **まちづくりのすすめ方の要因からまちづくりのすすめ方とまちづくりステップ達成状況との相関性を明らかにする**

⑤ **アンケート要因からアンケートの位置付けおよび効果的なアンケートを明らかにする**

⑥ 時間軸および各地区のおかれている状況からまちづくりの効果的な進め方を明らかにする

の 6 つの視点で分析、考察する。

また、本研究の構成は図 3-5 のとおりである。各章の流れとしては第 1 章で本研究の背景・意義、第 2 章で事例の選定及び調査対象の概要、第 3 章で調査方法、分析体系、第 4 章ではグループ分けおよび分析・考察、第 5 章では各章のまとめおよび地区計画の展望、課題を述べる。

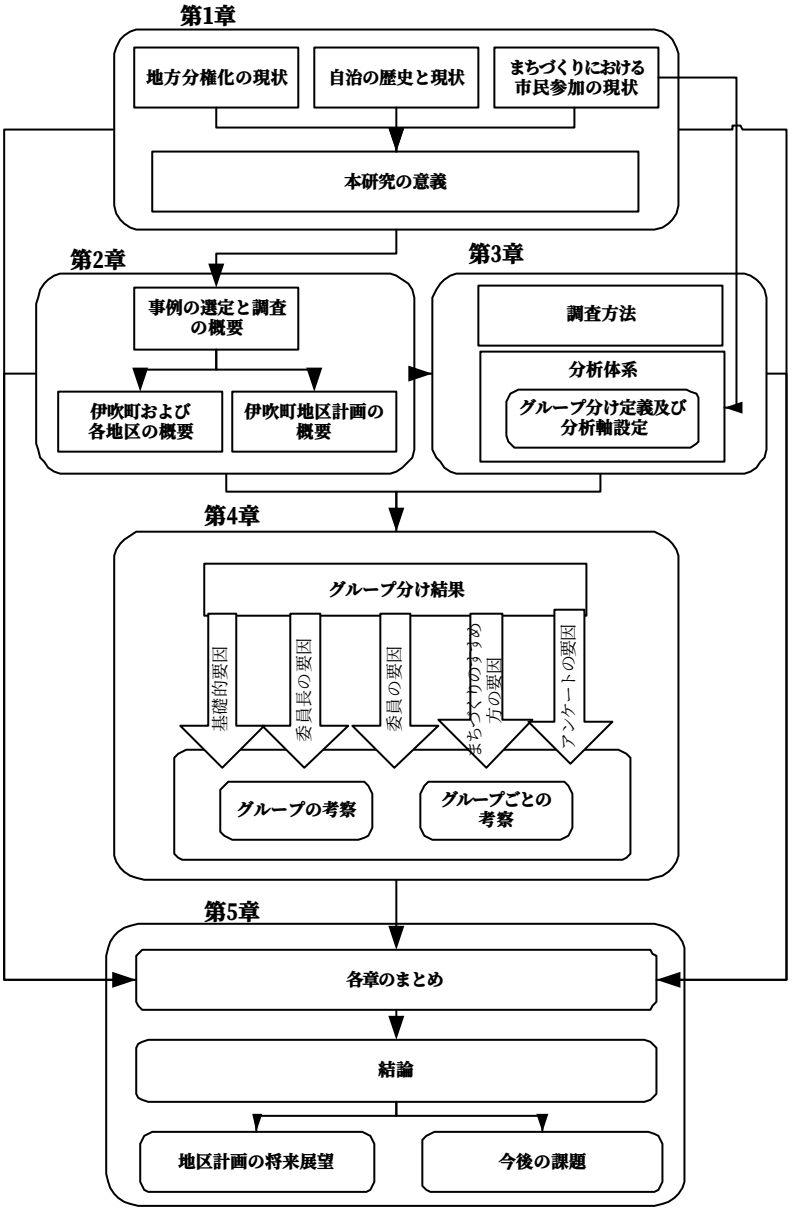

図 3-5　研究フロー

＜引用文献＞

1）伊吹町：第 4 次総合発展計画（2001）
2）大橋松行・池田宏：伊吹町史 通史編 下，伊吹町役場地域振興課（1990）
3）鳥越晧之：地域自治会の研究，ミネルヴァ書房（1994）
4）都市計画　特集都市マスタープラン―今後の課題と展望―、日本都市計画学会 vol.48 No2（1999）
5）歴史街道推進協議会：まちづくり参加の一歩 NOTEBOOK，pp90（1998）